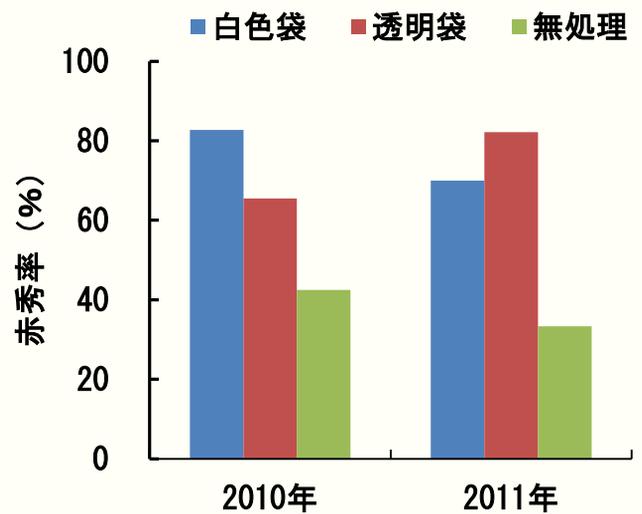
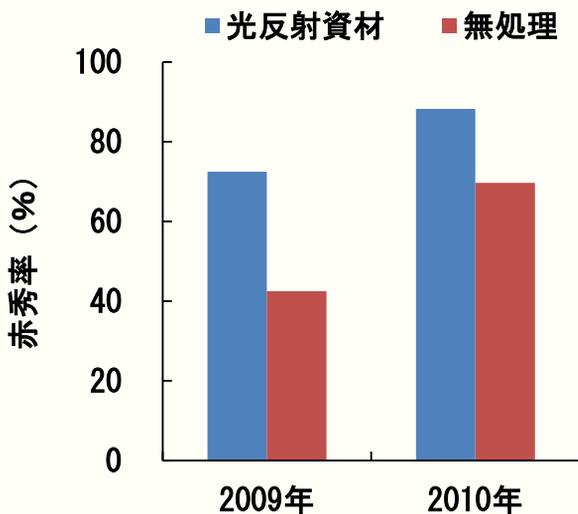
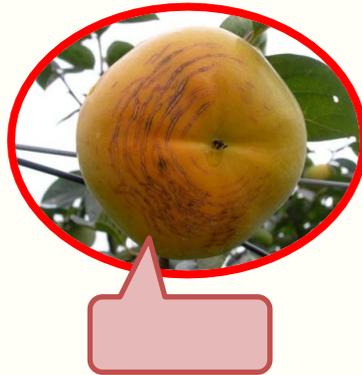


近年、若い世代におけるカキの消費低迷が著しく、将来におけるカキの需要低下が危惧されています。このような状況の中、食味の優れている‘太秋’は消費拡大の一助になると期待されています。しかし、果実の表面に条紋が発生し、外観品質の低下することが大きな課題でした。そこで、光反射資材の被覆および袋かけによる条紋軽減技術を開発しました。



果実品質は岐阜太秋柿選果基準（赤秀＞青秀＞無印＞平箱＞規格外）に沿って調査

(研究成果)

- ・ 8月下旬から9月上旬頃に光反射資材（タイベック700AG）を被覆することによって（被覆率90%）、条紋が軽減されます。
- ・ 9月下旬頃に袋かけ（白色パラフィン袋、ポリプロピレン製透明袋）を行うことによって、条紋が軽減されます。なお、袋の種類による差は認められません。